

自分自身の適性を見いだす力を育成するキャリア教育

— ホームルーム活動における単元構成と授業展開 —

高校教育研究会議

米丸 久美子¹

石本 秀樹²

梶山 祐二³

鈴木 祐史⁴

要 約

本研究は、個々の生徒の適性を見いだす力の育成をねらいとし、ホームルーム活動を通じた単元構成と授業展開に着目して研究を進めた。生徒が自分の適性を理解して、将来を設計することが、キャリア発達の重要な基礎となり、その適性を見いだす手だてを教員が指導・支援していく方法を探ることが重要であると考えたからである。

具体的には、進路選択の能力を育成するための高校3年間の授業の単元構成を立案し、それを基に作成した授業案で、川崎市立高校の普通科の生徒を対象に授業を実践することとし、普通科1学年の授業を対象として実施した。

1学年は自己理解を中心として単元構成を行った。また、ワークシートの作成を通して、生徒の授業内容の理解が段階を追って進められるように配慮した。生徒が自己理解の方法について学び、自己の適性を理解し、職業と適性について考えを深めていくことができるような授業展開を作成し、授業を実施した。

2, 3学年の単元構成については、1学年の授業実践を基にして、適性を見いだす力を育成するための活動がより有効な取組となるように題材案を作成した。

キーワード：適性を見いだす力、自己理解、ホームルーム活動

目 次

I 主題設定の理由	162	5 「適性を見いだす力の育成」における	
1 はじめに	162	単元について	164
2 高校で必要とされるキャリア教育	162	6 各学年の単元構成	165
II 研究の内容	163	7 1学年の授業実践	168
1 「適性」について	163	8 1学年の単元と授業展開を通して	173
2 「見いだす力」の育成に向けた活動について	163	III 研究のまとめ	175
3 キャリア教育の考え方を取り入れた活動について	163	1 キャリア教育からみえてきたこと	175
4 研究の方法	164	2 今後の課題に向けて	176
		参考文献	176
		指導助言者	176

¹川崎市立川崎高等学校教諭（長期研修員）

²川崎市立高津高等学校教諭（研修員）

³川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（研修員）

⁴川崎市立橘高等学校教諭（研修員）

I 主題設定の理由

1 はじめに

近年、産業・経済構造が急激に変化し、正社員の減少と低賃金派遣労働者、パート労働者の急増など、高校生を取り巻く就職状況は年々変化している。高等学校卒業者の就職率が上昇しているとはいえ、フリーターやニート、さらに3年以内の離職率の高さも問題になっている。そのため、今後は、高校生に将来の職業人としての意識をもたせ、自己の在り方生き方について考えることができる力を身につけさせることが大切であり、その支援の方法についても検討することが、重要であるといえる。

『キャリア教育推進に関する総合的調査研究者会議（報告書）』によると、キャリア教育の概念は「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くことへの関係付けや価値付けの累積」¹⁾ であるとされている。キャリアは個人の履歴であり、就学、仕事、社会的活動、家族、交友関係などで構成されている。

キャリア教育は、このキャリアの概念に基づき、生徒の進路選択や進路実現を教師が支援することにより、生徒が卒業後も自分の人生設計と主体的に関わり、問題に直面した際に解決策を導き、自己実現を図る力を培っていくための教育であると考えられる。

2 高校で必要とされるキャリア教育

『高等学校学習指導要領』の特別活動においては、進路指導については、「進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など」²⁾ と記されている。これらは、進路指導に関する3つの重要な柱であると示されている。

市立高等学校4校の生徒417名（各学年1クラスずつ）を対象にした進路指導に関する実態調査（2006年6月実施）によると、設問1「就職や仕事の選択にあたって特に重視すること」に対して、①「自分の能力や適性がいかせること」と⑦「自分の興味や好みがあること」と答えた生徒がいずれも72.7%と最も多かった。

また設問2の「ホームルーム活動で指導してほしいこと」に対しては、①「自分の個性や適性を考える学習」が39.6%と最も多く、次いで⑤「進路選択の考え方」が37.4%、⑥「進路に関する情報の入手の仕方とその利用の仕方」が29.5%という結果であった。これらの結果から、「進路適性の理解」と「進路情報の活用」についての学習や「主体的な進路の選択決定と将来設計など」について指導していくことは、重要であると考えた。

また、図1のグラフの結果の⑥「社会や人のために役に立ち、貢献できること」が28.8%と、図2のグラフの結果の⑧「将来の生き方や人生設計」が23.3%と数値が低いことから、これらの内容につ

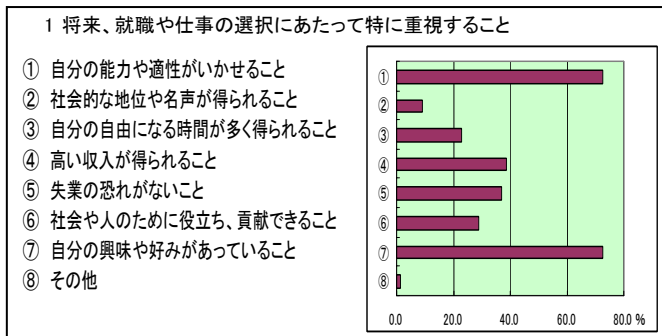


図1 将来、就職や仕事の選択で重視すること

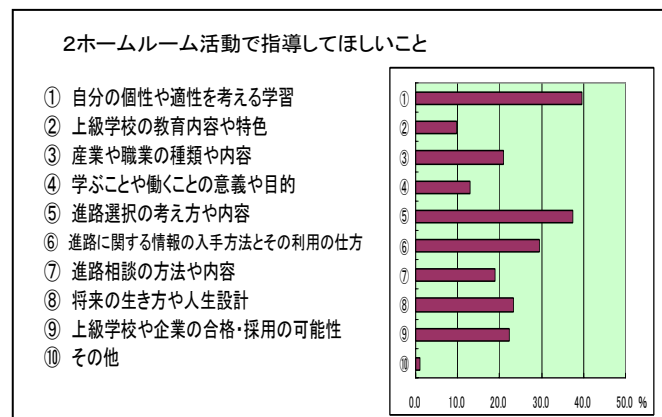


図2 ホームルームで指導してほしいこと

¹⁾ 文部科学省『キャリア教育推進に関する総合的調査研究者会議（報告書）』，2004，p.7

²⁾ 文部科学省『高等学校学習指導要領』，1999，p.385

いても意識づけをすることが必要だと考えた。

本研究では、特別活動の内容である「進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計」³⁾に基づいて、ホームルーム活動の進路指導計画の中に「適性を見いだす力を育成する」活動を位置づけた。これは、ホームルーム活動の内容が、学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関することとともに、学校生活の充実と向上に関することや個人及び社会の一員としての在り方生き方に関することにも含まれているからである。

そして、生徒の進路実現をより効果的に行うために、「適性を見いだす力の育成」とキャリア教育の諸能力の中から「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」「情報収集・探索能力」を特に関連づけ、学年ごとの単元や指導目標と題材の試案を作成することにした。さらに、生徒が自分自身の適性を見いだす力を育成していくために必要な活動内容や教師の支援の仕方も踏まえた展開例を作成したいと考え、研究主題を設定した。

Ⅱ 研究の内容

1 「適性」について

「適性」については様々なとらえ方がある。吉田辰雄は「適性」について、「ある特定の職業・学業・芸術活動などを効果的に遂行するために必要な知識や技術などを、学習によって獲得することが可能であるような、個人の諸特性である」⁴⁾と述べている。また、適性検査では、生徒の適性理解、学力・技能の理解、興味・価値観、性格・特性の理解など様々な検査項目が挙げられ、適性について幅広くとらえている。

本研究会議では、「適性」をD・E・スーパーの考える「欲求、性格、価値観、興味、態度を含む、パーソナリティと、知能や技能なども含み、成長や発達(学習経験等)によって拡大・変化するもの」⁵⁾としてとらえることにした。その理由は、適性は変化するものであり、青年期においては、身体的・精神的な成長が著しく、知識や技能などが発達する時期でもあるため、欲求や価値観等は変化するものであると考えたからである。

2 「適性を見いだす力の育成」に向けた活動について

「適性を見いだす力」を育成するために、次の三点の活動を取り入れた授業展開の工夫を図ることにした。

- ① 自分自身の知識や技術、興味、性格、価値観など自己の適性についての理解と伸長を図る活動
- ② 自分の希望する進路に関しての適性についての考えと、自己の適性との模索ができる活動
- ③ 進路に関する情報を収集・活用し、自分の進路実現に向けて、将来の設計をする活動

3 キャリア教育の考え方を取り入れた活動について

国立教育政策研究所が提案している「職業観・勤労観をはぐくむための学習プログラムの枠組み(例)」⁶⁾においては、職業的(進路)発達の全体を視野に入れて、職業観・勤労観の形成に関する4領域8能力が示されている。表1は、高等学校で身につけさせたい能力と態度がめやすとして示されたものである。

その中で、「適性を見いだす力を育成する」活動と関わりの深い能力を、表1の4領域8能力の「自他の理解能力」、「コミュニケーション能力」、「情報収集・探索能力」の3能力とした。これはコミュ

³⁾ 文部科学省『高等学校学習指導要領』, 1999, p.385

^{4) 5)} 吉田辰雄『キャリア教育論』文憲堂, 2005, p.130, p.131

⁶⁾ 国立教育政策研究所『児童生徒の職業観・勤労観をはぐくむ教育の推進について』2002, p.46

ニケーションを図る中で、互いの理解を深め、よさを発見し合うことが、適性を考える上で重要であると考えたからである。また、情報収集・探索能力と関連づけることは、適性を見いだすための情報の選択・活用の幅を広げるためにも有効であると考えたからである。

表1 職業観・勤労観をはぐくむための学習プログラムの枠組み(例)の抜粋

領域	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力				
領域説明	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	学ぶこと、働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程で課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。				
能力説明	自他の理解能力 コミュニケーション能力	情報収集・探索能力 職業理解能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	選択能力 課題解決能力				
	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	進路や職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	様々な体験活動を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割についての認識を深めていく能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で行っていく能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその理解に取り組む能力
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支えあひ分かち合える友人を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。 異年齢の人や異性等、多様な他者とのコミュニケーションを図る。 リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 新しい環境や人間関係を生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる。 調べたことなどを自分お考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・思考的な体験に取り組む。 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 将来設計・進路計画の見直し再検討を行い、その現実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観をもつ。 多様な選択肢の中から、自己の意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身につける。

「適性を見いだす力の育成」をめざす3年間の単元と指導目標については、これらの3能力を取り入れて作成することにした。学習のねらいとしての単元を、1学年「自己理解」、2学年「適性と進路」、3学年「進路設計」とし、1学年の「自己理解」では、自分の性格や特徴などをいろいろな方法から学ぶことを中心として、2学年では、「職業の適性」と自分の「適性」との関係を探り、3学年で具体的に自分の進路を選択して、今後の進路計画を設計できる題材とした。

4 研究の方法

(1) 研究主題に向けての視点

本研究会議では、次のような視点で単元構成と授業展開を行うことにした。

- ① キャリア教育に必要な諸能力と「適性を見いだす力」の単元構成を関連づけて、授業展開の開発を行うことにした。
- ② 特別活動のホームルーム活動における進路学習の単元として、各学年6時間の「適性を見いだす力の育成」を題材とした授業展開例を作成し、1学年の題材について授業実践を行う。
- ③ 題材の中で特に重視したことは、自分の適性について考える「自己理解」の活動であり、3年間を通して取り組む題材とした。
- ④ ワークシートを活用し、グループ活動を取り入れて、事前・事後学習の充実と段階的な指導を充実させる。

(2) 研究の進め方

「適性を見いだす力を育成するため」の単元構成と授業展開例を作成するに当たり、次のように研究を進めた。

- ① 文献や先行研究の調査と進路指導の分析（4～6月）
- ② 1学年～3学年の単元と題材案作成（5～10月）
- ③ 1学年の6時間の指導案作成（5～9月）
- ④ 1学年の授業実践と振り返り（6～1月）
- ⑤ 研究を振り返って（12～1月）

5 「適性を見いだす力の育成」における単元について

ホームルーム活動において、「適性を見いだす力の育成」の3年間の単元と題材案を作成した。次の表2は、特に身につけたいキャリア発達能力を関連づけて作成したものである。

表2 3年間の「適性を見いだす力の育成」における単元とキャリア発達能力との関連

学年	単元と指導目標	題材	特に身につけたいキャリア発達能力		
			自他の理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力
一 学 年	「自己理解」 進路学習を通して自分自身の適性・性格・特徴などを考える機会をもつことができる。 自己の理解の方法について学ぶ。	○ 自己理解Ⅰ ～自分史を描く～ ○ 職業の向き・不向き ○ 適性検査の理解と活用Ⅰ ○ 職業の3要素について考える ○ 仕事と生き方について考える ○ 自己理解Ⅱ ～1年間の進路学習を振り返る～	○ 自己の性格や特徴に気づき、職業と適性と関連づけて考える。 ○ 他者の価値観や個性を理解する。	○ 新しい環境や人間関係を生かす。	○ 職業についての情報を多角的に集められる。
二 学 年	「適性と進路」 職業についての知識を深めるとともに、自分の適性や特徴と進路適性とを関連づけながら考え、適性を伸ばすことについて考えることができる。	○ 適性検査の理解と活用Ⅱ ○ 上級学校(職場)訪問 ○ その道のプロに聞く ○ 現代の職業についての課題を考える ○ 自己理解Ⅲ ～なりたい自分は？～	○ 自己の適性を受け入れて、それを伸ばそうとする。 ○ 他者の価値観や個性を受け入れる。	○ 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。	○ 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ○ 職業生活における権利や責任等がわかる。
三 学 年	「進路設計」 自分の適性と進路適性の理解とを合わせて、進路を選択し、今後の進路計画を設計することができる。	○ 適性検査の理解と活用Ⅲ ○ 進路計画の設計 ○ 自己PRをする1、2 ○ 自己理解Ⅳ ～3年間の進路学習を振り返る～ ○ 将来設計	○ 自己の職業的な能力や適性を進路に生かす。	○ 多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。	○ 就職後や上級学校卒業後の就職等に関する情報などを探索する。 ○ 収集・探索した情報を活用し、自己の進路を決定する。

6 各学年の単元構成

(1) 1学年「自己理解」の単元構成

表3は、1学年の「自己理解」を単元として題材を作成したもので、「適性を見いだす力の育成」の活動の導入として位置づけた。自分の性格や特徴を様々な題材の活動の中から見つめ直すことを目標にしている。特に「仕事と生き方について考える」（5／6時間）では、「職業インタビュー」の体験的な活動から得た情報をグループ内で報告し合うことにより、互いの意見を認め合いながら、自分の「適性」と進路について考えを深められるようにした。「自己理解Ⅰ」（1／6時間）「自己理解Ⅱ」（6／6時間）では、自分の進路を考えるために過去の経験を振り返らせる活動内容とした。

表3 1学年「自己理解」の題材

単元目標	1学年「自己理解」			
	進路学習を通して自分自身の適性や性格、特徴などを考える機会をもつことができる。 自己の理解の方法について学ぶ。			
時間	題材	ねらい	学習活動	特に身につけたい力
1	自己理解Ⅰ ～自分史を描く～	高校入学までの自分がどのような人生を歩んできたかを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分にとって影響のあった出来事を一つ書き出し、そのときの自分の状態や気持ちについて書く。 ○ 自分史を報告し、感想を述べ合う。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力
2	職業の向き・不向き	自分の今までの経験と他者からの助言による職業の印象についての情報を、他者の意見を参考にして収集することができ、自分の適性と職業とを関連づけて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の興味や関心のある職業を選ぶ。 ○ どんな人が向いているかを考えてグループで発表し、意見を聞く。 ○ 自分がその職業に向いているかどうかを考える。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
3	適性検査の理解と活用Ⅰ	自分の適性について、進路と関連づけて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適性検査の結果について説明を受け、それを基に、性格や適性などについて自己分析をする。 	自他の理解能力 情報収集・探索能力
4	職業の3要素について考える	<p>「お金のためだけに働くか否か」という討議を通して、自分の働く目的について考える。</p> <p>他者の価値観や個性を享受し、互いの考えの幅を広げることができる。</p> <p>自己の思いや意見を適切に伝えたり、他者の意志等を的確に理解したり、判断したりすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お金のためだけに働くか否かという立場で討議する。 ○ それぞれの理由を聞き、自分の働く目的で優先するものについて考えを述べ合う。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
5	仕事と生き方について考える	<p>夏休みの課題の「職業インタビュー」の事後学習として、グループ内で報告し合うことにより職業に対する意識を深める。自己の興味や関心との接点を探るとともに、お互いに経験を共有し合い、職業についての生きがいや目的について考えさせる。</p> <p>職業をより身近に感じることができるとともに、自己の興味・関心との接点を考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業インタビューをして、レポートを書く。 ○ インタビューを通してわかった仕事内容について報告するとともに、自分が興味のある仕事についての考えを述べる。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
6	自己理解Ⅱ ～1年の進路学習を振り返る～	高校入学当初から現在までの自分の進路についての気持ちの変化に気づかせるとともに、自分の特徴についてさらに理解を深めることにより、2学年の「適性と進路」の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年間の進路学習を振り返り、適性や職業観等について、自分の考えや感想を述べ合う。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力

(2) 2学年「適性と進路」の単元構成

2学年の単元「適性と進路」では、自己の適性と職業の適性を模索することを単元目標におき、「上級学校（職場）訪問」（2/6時間）という体験活動と、「その道のプロに聞く」（4/6時間）といったガイダンスの機能を設けることにより、活動を実践的なものとなるようにした。特に、「その道のプロに聞く」では、自分の適性の理解が職業の適性に重要であることを実際に活躍している職業人や起業家、人事担当者などの話から理解し、働くことの意義や考えを深められるようにした。「現代の職業

について考える」では、自分が職業を考える上での課題について調べ学習をすることより、職業観や勤労観への考えを深めることを目的として設定した。また、これらの活動には、報告会や意見交換の活動、事前・事後学習も取り入れることにした。

表4 2学年「適性と進路」の題材案

単元目標	2学年「適性と進路」			
	職業についての知識を深めるとともに、自分の適性や特徴と進路適性とを関連づけながら考え、適性を伸ばすことについて考えることができる。			
時間	題材	ねらい	学習活動	特に身につけたい力
1	適性検査の理解と活用Ⅱ	職業的な適性検査の結果を基にした進路選択の資料として、適性検査を活用させ、自己理解を深める。 進路選択への関心・意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適性検査の結果について説明を受け、資料を基に、自分の職業の適性を分析する。 ○ 適性検査から読み取れたこと、自分の感想を書き、希望する進路と検査結果等の関連を考える。 	情報収集・探索能力
2	上級学校(職場)訪問～訪問前のガイダンス～	卒業後の進路を踏まえて、あるいは職場訪問を行うために、訪問の目的を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の好きな教科、これまでの体験活動などを基に、自分の興味のある進学先や職場を選ぶ。 ○ 訪問先での質問事項を考える。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
3	～訪問後の報告会～	職場訪問の報告し合うことで、情報を得て振り返り、自分の進路選択に生かす。 もう一度自分の進路について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訪問して得た情報で、印象深かったことをまとめ、報告し合い、情報を共有する。 ○ 他者の発表を参考にして、自分の進路について考える。 	
4	その道のプロに聞く	プロとして活躍している人の話を聞くことにより、働くことの意義や社会との関係を学び、仕事の適性について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の進路希望に近い分野の講師の話聞き、印象に残ったことや考えをまとめる。 ○ 分野ごとに、感想や意見を述べ合い、進路と適性について考えを深める。 	自他の理解能力 コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
5	現代の職業についての課題を考える	今問題になっている、ニートやフリーターなどの雇用の問題を考えることで、自分にとっての働く目的について考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雇用や賃金の問題など、職業に関する課題について、背景や現状を踏まえながら調査・研究をして、考えを深める。 ○ 調査・研究した内容を報告して、意見交換をする。 	コミュニケーション能力 情報収集・探索能力
6	自己理解Ⅲ ～なりたい自分は？～	「なりたい自分」を思い描くことにより、自分の将来の目標を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業生活、家庭生活、趣味等について、「こうなりたい」「なれるといいな」という思いを記述する。(絵やイメージでも可) ○ 3学年の目標を立てる。 	自他の理解能力

(3) 3学年「進路設計」の単元構成

3学年は、自己の適性を生かして進路選択をし、将来の進路設計を立てることを目標としている。「自己PRをする」(3, 4/6時間)の題材では、進路適性を的確に理解して、相手に伝えることができることをめあてとしている。「将来設計～ライフプランをつくろう～」(6/6時間)では、将来の進路設計を立てるうえで、職業だけではなく、家庭や社会参加等についても考慮しながら、「適性」を考えるための題材とした。

表5 3学年「進路選択」の題材案

単元目標	3学年「進路設計」			
	自分の適性と進路適性の理解とを考え合わせて、進路を選択し、今後の進路計画を設計することができる。			
時間	題材	ねらい	学習活動	特に身につけたい力
1	適性検査の理解と活用Ⅲ	就職希望と進学希望のそれぞれの進路適性の検査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適性検査の読み取り方の説明を受け、資料を基に、自分の適性につ 	自他の理解能力

		結果を活用し、進路決定の判断材料とする。	いて分析する。 ○ 1、2年の分析結果と比べて、適性の変化を読み取り、高校卒業後の進路について考える。	
2	進路計画の設計	希望する進学先、または就職先について調査し、自分の適性や条件と比較して、選択することができる。	○ 自分の適性や目標等、条件を整備し、希望する進学先、または就職先を比較研究して選択する。 ○ 入学試験、または入社試験に向けて進路計画を立てる。	情報収集・探索能力
3	自己 PR1	就職や進学を意識して自分の長所や短所を表現することができる。	○ 自分の長所や短所、高校生活で印象に残った出来事などについて、相手が具体的なイメージをもてるような文章を書く。	自他の理解能力 情報収集・探索能力
4	自己 PR2	相手に自分の思いや意見が適切に伝えることができる。	○ 自己 PR 文を発表し、聞き手がどのような感想をもったかを意見交換をする。	コミュニケーション能力
5	自己理解Ⅳ ～3年間の進路学習を振り返る～	高校 3 年間のそれぞれの段階で、進路について考えたことや準備したことなどを振り返ることにより、卒業後の将来設計に役立てる。	○ 3年間の自分の進路についての取組を振り返り、自分がどのような準備をしてきたか、きっかけとなった出来事や時期を振り返る。 ○ グループで報告し、意見交換をする。	自他の理解能力 コミュニケーション能力
6	将来設計 ～ライフプランをつくる～	5年、10年、15年後の自分の役割について、職業人、家庭人、地域人の立場からそれぞれ考える。	○ 5年、15年、25年後の役割について、行動計画を立てる。 ○ グループで報告し、意見交換する。	自他の理解能力 コミュニケーション能力

7 1学年の授業実践

川崎市立A高等学校1学年(全日制)のホームルーム活動における進路指導計画の中に、「適性を見いだす力」を育成するための単元と題材を取り入れて授業を行った。

1学年「自己理解」の題材の中で、「職業の向き・不向き」「職業の3要素について考える」「仕事と生き方について考える～職業インタビュー報告会～」「自己理解Ⅱ～1年の進路学習を振り返る～」について4時間の授業を実践した。

(1)「職業の向き・不向き」の実践(2/6時間)

① ねらい

- 自分の今までの経験と他者からの助言による職業の印象についての情報を、他者の意見を参考にして収集して、自分の適性と職業とを関連づけて考えることができる。

② 授業の流れ

	活動・指導内容		○指導・援助の留意点 ●キャリア発達能力の視点
	生徒の活動内容	教師の働きかけ	
はじめ	○自分の興味や関心が高い職業と、それを選んだ理由を書く。 ○その職業に向いているのはどのような人かを書き出す。	○「職業の向き・不向き」を簡単に説明する。 ○職業と適している人の書き方を例示する。	○生徒の選ぶ、適している人や向いている人は必ずしも合っているとは限らないが、生徒の選んだことを尊重して試行錯誤させる。 ●情報収集・探索能力
活動の展開	○4～5人のグループで自分が興味や関心の高い職業とそれに向いている人を発表し合い、他の人と意見交換をして得た情報を加える。 ○グループで意見交換した内容を、代表者がまとめて、全体の前で発表する。	○記入の仕方について指示をする。 ○自分が興味や関心のある職業と、それに向いている人を報告し、他の人からもいくつかの意見を出してもらうように指示する。 ○挙げられた職業の共通点や意見などを発表するように伝える。	○グループの話し合いの中で、他者の職業に対する考えの理解を進められるように支援する。 ●コミュニケーション能力 ●情報収集・探索能力

まとめ	<p>○自分の選んだ職業が、自分のどのようなところが向いているかを判断して、ワークシートに記述する。</p> <p>○自分の選んだ職業に就くとしたら、高校卒業後、どのようなことが必要となるか、資格取得や進学などの予想を書く。</p> <p>○振り返りシートに活動の感想を書く。</p>	<p>○自己の適性と職業との関連を考えたながら記入するように支援する。</p>	<p>○興味や関心のある職業に就くための必要事項の記入については、必要以上に答えないようにする。今後の進路の調べ学習で、調べることを促す。</p> <p>●自他の理解能力</p>
-----	--	---	---

③ 生徒の活動の内容

表6は、生徒が興味・関心のある職業として選んだものであり、看護師、トリマー、消防士など25種類もの職業についての選択理由と、どんな人に向いているかの意見の抜粋である。

表6 生徒が選んだ職業とそれに向いている人の意見の抜粋

職業	選択理由	その職業に向いている人					
		話好き・聞き上手	世話好きな	知識がある	人のために生きられる	忍耐強い	
1 介護福祉士	お年寄りの力になりたい。人の役に立ちたい。	責任感のある	ボランティアが好き	自己主張できる	明るい	気持ちに余裕がある	
2 社会福祉士	やりがいのある仕事だと思うから 人の役に立てると思うから	肉体労働が平気な	協調性がある	人のために働ける	優しい	途中で妥協しない	
3 看護師	人を助ける仕事がしたい やりがいのある仕事だと思うから	温かみのある 責任感のある	命を大切にできる てきぱき動ける	人を好きな 話し上手な	社会に貢献できる 物をなくさない	清潔な 知識のある	
4 教師	なりやすそう 身近な存在だから 収入が安定している 中学の時の先生がよい先生だったから	考えるのがうまい 勉強できる 大学卒業 人の気持ちがわかる	ものをなくさない 人前で話すのが好き パソコンが使える 時間を守る	優しい 子どもが好きな 思いやりのある 自分に厳しい	責任感のある 自分の考えが言える 声が大きい 熱血な	我慢強い 教え方がうまい 状況判断できる 頭のよい	
5 保育士	子どもが好きだから 子どもと遊んだりするのが好きだから	子どもが好きな 世話好きな 忍耐力がある	ピアノが弾ける 家庭的な 気持ちに余裕がある	体力がある 話し上手で聞き上手な 面倒見がいい	優しい 字がきれい 思いやりのある	責任感が強い 言葉遣いがよい 明るくて面白い	
6 調理師	食べたり、作ったりするのが好き おもしろそうだから 料理は楽しいから	料理好きな 親がコックの センスがある	創造力がある 喜ばせるのが好きな 努力する	器用な 子どものころから料理をしている 味がわかる	食べ物が好きな 食べ物を大切に 人を喜ばせるのが好き	外国にも詳しい 好き嫌いのない 栄養について詳しい	
7 栄養士	自分のためにも人のためにもなる仕事だから	料理好きな	人の役に立つのが好きな	化学が好きな	清潔な	笑顔が素敵な	
8 警察官	興味があるから	正義感が強い	高学歴な	法律などに詳しい	公平な態度を取れる	外国語ができる	
9 消防士	人のために直接働けるから	正義感のある	度胸のある	人の命を大切に思う	体が丈夫な	頑張れる	
10 公務員	くびにならないし、安定しているから	けじめのある	責任感のある	自己中心的ではない	ルールを守る	頭のいい	
11 検察官	法に携わった職に就きたいから	頭の回転が速い	法律に詳しい	書類などの整理が出来る	責任感のある	情報収集がうまい	

④ 生徒の感想

<p>○ <u>介護福祉士は中学時代からの夢で、自分に向いているという意識をもたなければ、目標をもてないと思った。</u> みんなの意見が参考になった。積極的に周りの人の意見を聞き、資料も集める。</p> <p>○ <u>自分に合った職業を見つけるのは大変だと思った。</u> いろいろな仕事を見たほうが良いと思った。</p> <p>○ 保育士は、どちらかというに向いていると思った。自分に合った職業が必ずあると思った。<u>やりたい仕事は本当に向いているかどうかは、正直、やってみないとわからないと思った。</u> その仕事に就くためには、どんな気持ちでどんなことをしなければならぬかを、考えなければいけないと思った。まずは、資格取得の方法を調べ、保育士についての資料を集めようと思った。</p> <p>○ 検察官は、今のところどちらかというに向いていないことがわかった。でも今は「不向き」かもしれないけれど、諦めることはできない。これから自分をどうしていくかが、今回の活動でわかってよかった。これから、<u>自分の改善点を見つけて、勉強もしていきたい。</u></p> <p>○ <u>自分の考えている職業は、自分が考えていた以上にたくさんやるがあった。</u></p>

⑤ 授業を振り返って

活動の様子や生徒の感想から、次のような点で生徒の変容をみることができた。

ア 自分の適性と職業について関連づけることに気づくことができた。

イ 適性を見いだすためには体験的な活動が重要であることに気づくことができた。

ウ 来年に向けて積極的に考えていこうという姿勢や他者の意見を参考にして情報を収集することの大切さなどを学ぶことができた。

(2)「職業の3要素(経済性、社会性、個人性)について考える」⁷⁾の実践(4/6時間)

① ねらい

- ・ 「お金のためだけに働くか否か」という討議を通して、自分の働く目的について考える。
- ・ 他者の価値観や個性を享受し、互いの考えの幅を広げることができる。
- ・ 自己の思いや意見を適切に伝えたり、他者の意志等を的確に理解して判断したりすることができる。

② 授業の流れ

	活動・指導内容		○指導・援助の留意点 ●キャリア発達能力の視点
	生徒の活動内容	教師の働きかけ	
はじめ	○「人の働く目的は、お金のためだけである」を支持する意見と、「人の働く目的は、お金のためだけではない」を支持する意見の両方を書き出す。	○「あなたはどんな目的をもって働きますか？」のワークシートを配付する。 ○本時のねらいを説明し、働く目的がお金のためだけか、そうでないかの両方の意見を述べる準備をするように伝える。	○それぞれの立場の根拠となる意見も論理的に述べることを確認する。 ●情報収集・探索能力
活動の展開	○2人組になり、それぞれの立場に分かれて、3分間の討議をする。 ○相手から出た意見などをワークシートに記入する。 ○討議した2人組を合わせて、4~6人のグループをつくり、自分たちの意見をまとめ報告し合う。	○生徒の中に入って質問などを聞く。 ○ワークシートの記入の仕方を指示する。 ○グループをどのようにするかを指示し、代表を指名し、グループの意見や話し合われたことを発表させる。	○自分としての意見をもつことができるように促す。 ●コミュニケーション能力
まとめ	○働く目的は大きく分けて、3つの要素(経済性、社会性、個人性)があることを理解する。 ○自分はどのような目的を大切にしたいかを考える。 ○本時の授業を振り返り、シートに記入する。	○生徒の意見を板書し、働く目的の3要素(経済性、社会性、個人性)について確認する。	○働く目的を自分のことに置き換えて考えることができるかどうかを、確認する。 ●自他の理解能力

③ 生徒の主な意見

意見を交換する中で、「生きがいを得られる仕事のため」「社会のため」と、働く目的の3要素の個人性、社会性についての意見が、教師が伝える前に挙げられた。

図3は、生徒自身の働く目的の記述から項目を立てて、グラフにしたものである。「楽しい人生のため」が25.5%と最も多く、次に「人の役に立つ」が18.6%であった。

「収入のため」は、9.3%と少ない結果であった。

働く目的に対する主な意見

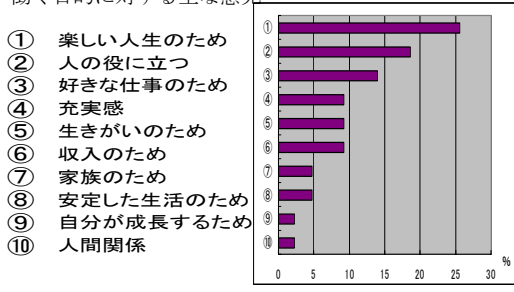


図3 働く目的に対する主な意見

④ 生徒の感想

- 好きな仕事を充実してやりたいと思った。好きなことを仕事としてやっていかれるのか考えなくてはならないと思った。
- 職業の目的がよくわかった。興味のあることにかかわりのある仕事がしたいと思った。
- 仕事へのやりがいやいかに充実して働けるかなども大切なことがわかった。
- 自分は、仕事は収入が第一と思っているが、好きな仕事に就くこともよいことだと思った。
- 現実難しいが、人のために働きたい。
- 収入以外の目的を考えたことがなかったのでよかった。

⑤ 授業を振り返って

授業者が、「人の働く目的は、お金のためだけである」を肯定と否定の立場に分かれて討議することを伝えたときには、「お金のためだけに働く」立場で意見を言うのは難しいと述べる生徒が多かった。

⁷⁾ 仙崎 武 編著『担任のための生き方教育としての進路指導』学事出版,1999, p.140

これは、働く目的を「好きなこと、興味のあることを仕事にしたい」と考える生徒が多かったためであると考えられる。しかし、討議が進み、自分たちの意見を報告し合う中で、「お金のために働く理由」やその裏づけとなる事象などがいくつも挙げられると、「好きなことを仕事にしたいが、お金も必要不可欠である」という意見が多く出された。ただ、勤労体験や職業に関する知識や経験が乏しく、限られた知識で考えようとした生徒が多くいたが、「仕事は収入が第一と思っているが、好きな仕事に就くこともよいことだと思った」「収入以外の目的を考えたことがなかったのでよかった」という感想より、他者の意見を聞くことにより、収入以外の働く目的を考えることにつながったと考えられる。

最初の討議では、「働く目的はお金のため」という意見や「生きがいのため」という意見を述べている生徒が多かったが、この授業を振り返って自分の働く目的を学ぶことができたと考える。

(3) 「仕事と生き方について考える～職業インタビュー報告会～」の実践（5／6時間）

① ねらい

- 夏休みの課題の「職業インタビュー」の事後学習として、グループ内で報告し合うことにより職業に対する意識を深める。自己の興味や関心との接点を探るとともに、互いに経験を共有し合い、職業についての生きがいや目的について考えさせる。
- 職業をより身近に感じることができるとともに、自己の興味や関心との接点を考えさせる。

② 授業の流れ

	活動・指導内容		○指導・援助の留意点 ●キャリア発達能力の視点
	生徒の活動内容	教師の働きかけ	
事前	○夏休みに、自分が就きたい、または興味がある仕事に就いている人に、仕事の内容や生きがいなどについてインタビューをした。その内容を「インタビューシート」に記入した。インタビューシートの中から、報告する内容をまとめる。	○「インタビューシート」を返却し、報告会の趣旨と流れについて説明するとともに、報告内容をまとめるように指示する。	○夏休みの調べ学習を基にまとめる。 ●情報収集・探索能力
はじめ	○5人一組のグループをつくり、インタビューシートと自分の報告する内容を書いたシートを用意する。	○報告会で相手が必要な情報は何かを考えさせ、報告を聞く際のワークシートの記入について説明する。	○グループづくりについては、同じ職種が集まらないように留意する。 ●コミュニケーション能力
活動の展開	○各自インタビューの内容について2分程度にまとめて報告し、その後、質疑を受け応答する。 ○各グループで代表者を1名選び、グループ内で報告された内容をまとめて全体に発表する。	○メモに頼らずに自分の言葉で表現する指示する。	○グループ全体から質問や意見が出るように働きかける。 ●コミュニケーション能力 ●自他の理解能力
まとめ	○報告会で印象に残ったことや他の生徒の感想などを書く。 ○本時の授業を振り返り、振り返りシートに記入する。	○数名の生徒を指名して、感想や意見を発表させる。	●自他の理解能力

③ 生徒の活動の内容

生徒が夏休みにインタビューした職業は34種類であった。そのインタビューの報告を聞いて印象に残ったことを抜粋して表7にまとめた。

表7 職業インタビューの報告を聞いて印象に残ったこと(抜粋)

職業	職業インタビュー報告を聞いての印象に残ったこと		
地方公務員	収入が安定している。	高卒でもなれる。	どんな仕事かわかった。
中学校教諭	勤務時間が長く、休日出勤があること	大変な仕事	積極的でコミュニケーションが図れる人が向いている
学習塾講師	全教科わからないといけないこと	教員免許がなくてもなれること	やりがいが学校の教師と似ている
社員管理	たくさんの社員をまとめるのが大変だと思った	年収が高い	理数系、パソコンができるといい
電気空調工事	専門的な資格が必要なこと	自営で働けること	常に危険が伴うこと

④ 生徒の感想

- 自分の知らなかった職業について知ることができ、これから仕事を考える上で、参考になった。
- 今まで知らなかったことがわかり、興味のなかった職業にも興味をもつことができた。
- 自分の就きたい職業はなかったが、いろいろな職業にはいろいろな考えをもっている人がいることがわかり、考えさせられた。
- どんな仕事でもやりがいをもって働いていることがわかった。
- その仕事ならではのやりがいがあって、勉強になった。
- どの仕事人にも人とかかわりがあることがわかった。
- 互いに質問ができたので、すごくいい報告会だった。
- 身近に思える職業でも、仕事の内容は初めて聞くことが多かった。

⑤ 授業を振り返って

報告に際して話を整理しやすくするため、「インタビューするまで知らなかったこと、びっくりしたこと、勉強になったこと」について「聞き手にわかりやすく報告する」ように指示した。このことで、報告の準備時間が短縮され、話し合い活動が活発となったと考える。報告会のシートを見ると、「仕事のやりがい」、「どんな人が向いているか（職業に関する資質）」「仕事をするうえで苦勞すること」についての内容や感想が多くみられた。その中でも特に、「これまで興味のなかった仕事に、すごく興味をもった」「身近に思える職業でも、仕事の内容は初めて聞くことが多かった」という記述から、意見交換をする中で、職業についての意識を深めることができたものとする。「どんな仕事もやりがいをもって働いていることがわかった」という感想から、生徒は、興味や関心で仕事に就いても、やりがいをもつことの必要性を学ぶことができたとする。また、「どの仕事も人とかかわりがあることがわかった」という感想からは、仕事にはコミュニケーションが必要であることなどを学ぶことができたとする。

(4)「自己理解Ⅱ～1年の進路学習を振り返る～」の授業の実践（6／6時間）

① ねらい

- ・ 高校入学当初から現在までの自分の進路についての気持ちの変化に気づかせるとともに、自分の特徴についてさらに理解を深めることにより、2学年の「適性と進路」の学習につなげる。

② 授業の流れ

	活動・指導内容		○指導・援助の留意点 ●キャリア発達能力の視点
	生徒の活動内容	教師の働きかけ	
事前	○シート「今年1年の進路学習を振り返って」とこれまでの活動内容の一覧表と使用した資料を受け取る。 ○それぞれの学習で、自分が考えたことや気持ちの変化をまとめる。	○1年間の進路学習に関する資料を返却し、事前学習の内容を説明する。	●自他の理解能力
はじめ	○4月当初から今までの気持ちを報告する準備をする。 ○5人一組のグループになる。	○席の近い5人が一組のグループになるように指示する。	○これまでの進路学習の目的を再確認させ、その時々思いと向き合うことができるように助言する。 ●自他の理解能力
活動の展開	○入学当初から現在までの気持ちを報告し合う。(質疑応答を含めて一人3分くらい) ○グループ内で考えが変わったことや新しくわかったことを整理する。 ○グループの代表を一人選び、報告する。	○進路についての自分の気持ちを率直に話すように指示する。 ○各グループの進行状況を確認しながら進めていく。 ○代表の生徒が話しやすいように、協力するように指示する。	○意見交換や話し合いがうまくいくように支援する。 ○代表生徒は、各グループの判断で選ばせる。 ●コミュニケーション能力
まとめ	○進路学習を振り返ったの感想と仲間の変化を聞いた感想、2学年に向けての進路に関する抱負を書く。	○振り返りシートを配付する。 ○次年度の進路学習の流れを説明し、具体的な計画が立てられるようにする。	●自他の理解能力

③ 1年間の学習を振り返っての生徒の感想

- 他の人の意見を聞いて、働くことにもっと興味をもったり、自分の気持ちが整理できたりした。ただ進学するのではなく、日常の中で人間をつくっていくことが重要だと思った。
- 入学当初と進路に関する気持ちは変わらず、自分の性格や得意なことから職業を見つけたいと思っている。そのために、2年から学校での勉強も受験に向けて頑張っていきたい。
- 将来の夢は変わらないが、まず、自分のよいところや悪いところを考えてみたい。そして自分を深く知っていきたい。後は高校生のうちにできることはやっておきたい。
- やはり仕事の内容などを調べているのとしないのとではわけが違い、4月初めに考えていた進路とは明らかに違うものに変わっていた。調べていけばまた別の道が開けるかもしれないと感じた。
- 自分の将来の夢が自分の適性に合っているかどうか、ちょっと不安になってしまったけれど、その分自分がその職につきたいという気持ちが強まった。

④ 授業を振り返って

1学年の学習を振り返っての生徒の「自分を深くしていきたい」という感想からは、自己理解が進路を考えていく上では大切なことだと気づいたことが読み取れる。また、「自分の性格や得意なことから職業を見つけたい」という感想からは、1年間の活動の中で、生徒が自分自身の適性から進路を考える方法があることを学んだものとする。また、インタビューの報告会等のグループでの話し合いを通して、コミュニケーションや情報収集能力の必要性を実感できたものと推察する。

8 1学年の単元と授業展開を通して

(1) 着目生徒の変容について

次の表8は、生徒が1年間の進路学習を振り返り、適性や職業観等、または入学当初からの気持ちの変化についてワークシートに記入した感想の中から、3人の生徒に着目してまとめたものである。この表から3人の変容を読み取ることにした。

表8 ワークシートの記述(抜粋)

活動の内容	Aさん	Bさん	Cさん
高校で力を入れたいこと	看護師になりたいが、具体的にまだどのように動いたらよいかわからないので、とりあえず、勉強に力を入れたい。	バスケットボールに関係する仕事をしたいので、部活中心で学校生活を送りたい。 <u>これを聞かれたときに、進路について考えるきっかけだった。</u>	就きたい職業は全然決められなかった。もっと深く進路を考えなければと思った。
職業の向き・不向きの感想	職業に向いているかどうかを考えたことがなかった。他の人の考えを聞いて、いろいろな面が見えてきた。	スポーツトレーナーに興味があるので挙げてみた。 <u>知識が乏しいことがわかったので、もっと調べてみようと思った。</u>	ダイバーを挙げた。自分が向いているかどうかはどちらともいえなかった。 <u>意見を出してもらったりすると、自分では思わなかった考えが出てきて、参考になった。</u>
職業の3要素について考える	生活をするためのお金を得るために働くことは大切なことだと思ったが、 <u>自分の夢を大切にすることもあるんだ</u> と思った。3要素すべてが大切だと思った。	仕事は、楽しくて面白い仕事に就きたいと思った。それでいて、 <u>お金が入れば一番いい</u> と思った。	<u>お金のためだけには、働きたくない</u> と思ったが、 <u>お金は必要なことがわかった。</u> <u>自分はお金よりも自分の好きな職業に就きたい</u> と思った。
職業インタビュー	看護師のインタビューをした。仕事の内容の細かいことまでは、わからなかった。 <u>実際の仕事は思った以上に忍耐力が必要で、健康管理も大変</u> そうだったと思った。	水泳のインストラクターの方の話を聞いた。その人も好きなことを仕事にしている、素晴らしいと思った。	航空整備士の方の話を聞いた。人の命に携わり、人を満足させる接客の仕事でもあるので、どの場でも人と関わっていることがわかった。
報告会	自分とは異なった職業のことを知り、今まで気にしたことのない職業について聞くことができた。	他の人が調べた職業を聞いて、 <u>自分が就きたい仕事以外にも興味を向けることができた。</u>	<u>仕事はどんなことでも人やものにつながっている</u> と思った。 <u>自分の知らない職業がたくさんあって、勉強になった。</u>
自己理解Ⅱ	自分の将来の夢が自分の適性にあっているかどうかちょっと不安になってしまったが、 <u>看護師になりたい</u> 気持ちはその分強まった。 <u>2年生になったら、学習面を頑張ることはもとより、適性を</u> 探すためにいろいろなことに <u>チャレンジすることが大切だ</u> と思った。	最初に考えていた職業と少し違うと思うが、 <u>スポーツ関係の仕事につきたい</u> という気持ちは変わらない。そのためには、 <u>専門学校に行こう</u> と思い、学校について詳しく調べてみようと思った。 <u>適性を見つめることは、何が得意で何に生きがいを感じるかなどをよく考えることだ</u> と思った。	進路は未定のままだが、 <u>色々な進路の可能性について考えてみたい。</u> 自分の適性は、興味をもったことは何か、それが適しているかいないかをきっかけとして考えてみたいと思った。

① 着目生徒Aさんの変容について

Aさんは、高校に入学する以前から看護師になりたいと考えていた。進路希望は具体的な目標をもったものではなく漠然としていたが、「職業の向き・不向き」を考える授業でAさんは、「職業に向いているかどうか考えたことがなかったが、他の人の考えを聞いて、いろいろな面が見えてきた」と振り返っている。この時点でAさんは、職業については本人の希望と適性の両面から考えていかなければならないと気づいている。「職業の3要素について考える」の活動では、「お金を得るために働くことは大切だが、自分の夢を大切にすることもある」と感想を述べているように、進路に対する考えがより具体的、現実的なものとなっている。「職業インタビュー」の活動では、看護師にインタビューして、「実際の仕事は思った以上に忍耐力が必要」であることを理解し、職業に対する学びを深めることができた。「自己理解Ⅱ」の授業では、自分の適性を見つけることや「適性を探すためにいろいろなことにチャレンジすることの大切さ」に気づくことができた。

このことからAさんは、「自己理解」の活動を行うことによって、より具体的、現実的に看護師への道を見つける手だてを見つけだすことができたものとする。

② 着目生徒Bさんの変容について

Bさんは、入学当初「進路希望調査」で「高校で力を入れたいこと」の設問から、自分の進路について考えるようになった。以前から、バスケットボールに関係する仕事をしたいと考えていたBさんは、「職業の向き・不向き」の授業では、スポーツトレーナーの適性と自分の適性との関連について「(自分の)知識が乏しいことがわかったので、もっと調べてみようと思った」と述べている。また、「職業の3要素について考える」の授業では、仕事と収入の関係について考え、「楽しくておもしろい仕事に就き、それでいてお金が入れば一番いいと思った。」と自分の働く目的を記述している。その後、「職業インタビュー」や「報告会」を通して、自分が興味や関心をもった職業について多くの情報を得ることができた。「自己理解Ⅱ」の授業では、「スポーツ関係の仕事に就きたい」「適性を見つめることは、何が得意で何に生きがいを感じるかなどをよく考えることだと思った」という感想から、スポーツ関係の仕事と適性との関連について理解を深めることができたものとする。

これらの取組を通してBさんは、最初に自分が考えていた進路から、「適性を見いだす力を育成する」活動が進むにつれて、職業に対しての視野を広げていったことが読み取れる。

③ 着目生徒Cさんの変容について

Cさんは、進路希望調査の結果では、就きたい職業についてはまだ決断できない状態だった。しかし、「職業の向き・不向きを考える」の授業で、自分でもよくわからないとしながらも職業に「ダイバー」を挙げ、いろいろな意見を交える中で、「意見を出してもらったりすると、自分では思わなかった考えが出てきて参考になった」と述べている。職業を考える上で、いろいろな意見を聞き、知識を得たりすることの大切さを実感したものと考えられる。また、「職業の3要素について考える」授業では、「お金のためには働きたくないが、お金は必要なことがわかった」としながらも、自分の就く職業については、「お金よりも自分の好きな職業に就きたいと思った」と進路選択に向けて積極的に考えるようになった。「職業インタビュー」「報告会」の活動を通して、4月当初は、いくら考えても「就きたい職業は全然決められなかった」と書いていたCさんが、「仕事はどんなことでも人やものにつながっている」という感想から、働くことの目的を理解し、コミュニケーションの必要性を感じ、いろいろな人と意見を交換して知識を得る中で、自分の進路や生き方について考えを深めていくことができた。

最後の「自己理解Ⅱ」では、まだ具体的には進路目標について決めていないものの、「自分の適性は、

興味をもったことは何か、それが自分に適しているかをきっかけとして考えてみたい」と述べ、今後の進路について意欲的に考えるようになったことが読み取れる。

(2) 1 学年の単元構成と展開について

適性を見いだす力を育成するためには、最初に取り組むべき内容として、自分自身の知識や技術、個人の興味、性格、価値観等、自分について理解を深めることが重要であると考えた。その意味で1 学年では「自己理解」をテーマに、6 時間の題材を設定して、授業を実施した。

高校入学までの自分の今までの生活を振り返り、自分の興味や性格、価値観等をまとめる取組を通して、職業に対する適性について考え、客観的な資料から適性検査を活用し、職業の3 要素から働く目的について考えを深める展開とした。その結果、特に「仕事と生き方について考える」題材の「職業インタビューの報告会」の活動は、体験的な活動を仲間と共有することにより職業についての理解の幅を広げるとともに、インタビューを振り返ることから自己理解を深めるためにも有効であったと考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究からみえてきたこと

(1) キャリア発達能力との関連を通して

キャリア発達能力において、特に身につけさせたい3 能力として、「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」「情報収集・探索能力」を挙げ、「適性を見いだす力を育成する」活動と関連づけて単元構成をした。1 学年の授業実践を通して、生徒は常に自分についての性格や特徴を見つめながら自分の進路について理解し、互いの意見を認め合いながら、考えを深めていくことができた。自分の考えをグループやクラスで発表することで、互いの理解を深め合うことができ、適性を考える上で、「自他の理解能力」や「コミュニケーション能力」と関連づけることは、重要であると考えた。

また、「情報収集・探索能力」との関連については、働くことの意義を考えたり職業インタビューなどの活動を通して、情報を収集し、報告し合いながら、自分の進路選択に向けて意欲的に考えていくことができるようになった。このことから、適性を見いだすには、情報の選択や活用の幅を広げることが有効であると考えた。

(2) 適性を見いだす力を育成する活動を通して

適性を見いだす力を育成する活動として、自分自身の性格や特徴等、自分を見つめ直す機会をつくるために、自己理解を単元として1 学年の題材を作成した。「職業の向き・不向き」を考える授業では、興味や関心のある職業を選ぶことで、自分の適性について考えるきっかけづくりとなり、改めて職業を選ぶことの難しさを認識するには、効果のある題材であったと考える。

また、「職業の3 要素について考える」の授業では、働く目的について討論することにより、仕事に対する他者のいろいろな考えや価値観について理解を深め、他者理解につなげることができたと考えた。この題材では、働く目的には経済性、社会性、個人性などの多様な側面があることを再認識することができたとも考えられる。

特に「職業インタビュー」と「報告会」の授業では、仕事と生き方について考えることをねらいとして、インタビューを通して必要な情報を多面的に収集・整理して、それを報告し合うことで、コミュニケーションを図りながら、自己理解を深めることにつなげていくことができたと考えた。

これらの6 時間の題材を通して、生徒は、ワークシートの活用やグループ活動での話し合いなどで、意欲的に進路選択を考えるようになり、自分自身の適性を見いだしていく活動を展開できたものと考

える。

2 今後の課題に向けて

「自分自身の適性を見いだす力を育成する」活動について、次の二点が課題として挙げられる。

第一として、1 学年の授業実践を基に、2、3 学年の単元構成を検討して授業展開案を作成することである。今回の研究では、1 学年の「自己理解」をテーマにして6 時間の展開案を作成し、4 時間の授業実践をすることができた。2、3 学年については、この授業実践を基に、適性を見いだす力を育成するための活動が、より有効な取組となるように授業展開案を作成したいと考える。

第二として、外部講師を招いてのキャリアガイダンスの機能を取り入れて実施することである。そのために2 学年の題材案に、「その道のプロに聞く」を設定し、外部講師を招いての実際の体験や経験を聞く活動を取り入れた。外部講師を招いてのガイダンスは、社会とのつながりを意識した将来設計を考えるためには重要だと考えたからである。適性と関連づけながら、キャリアガイダンスの機能を取り入れて、3 年間を見通した活動にしたいと考える。

最後に、研究を進めるに当たり適切なお助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生をはじめ学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

文部省『個性を生かす進路指導をめざして』日本進路指導協会	1993 年
全国高等学校進路指導協議会編『進路指導ベーシック・マニュアル』実務教育出版	1997 年
文部科学省『高等学校学習指導要領』	1999 年
仙崎 武 編著『担任のための生き方教育としての進路指導』学事出版	1999 年
全国高等学校進路指導協議会編『高校生の進路指導ノート 総合版』実務教育出版	2000 年
柳井 修『キャリア発達論』ナカニシヤ出版	2001 年
文部科学省『キャリア教育推進に関する総合的調査研究者会議（報告書）』	2004 年
三村隆男『キャリア教育入門』実業之友社	2004 年
堀川博基『職場体験プラスαの生き方学習』実業之友社	2004 年
吉田辰雄『キャリア教育論』文憲堂	2005 年
日本進路指導協会（平成 16、17 年度文部科学省委託事業） 『中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書』	2006 年
本間啓二 共著『キャリアデザイン概論』社会法人雇用問題研究会	2006 年
佃直毅 渡辺三枝子共著『適職を探す自己分析ノート』実務教育出版	2006 年

【指導助言者】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長（川崎市総合教育センター専門員）	工藤 文三
法政大学助教授	小美川 孝一郎
川崎市総合教育センター指導主事	佐藤 栄寿